



事業名

ひらかた万博:みんなで創ろう!この街の未来
2025年大阪・関西万博を契機に共創機運の高まりを枚方市へ



みんなで創ろう!この街の未来

ひらかた万博

ひらかた万博の目的

大阪・関西万博を契機に枚方市をさらに魅力あるまちへ

>>> 地域経済の活性化

- 国内外から枚方市に人が集まる
- 市外、海外から見た枚方の隠れた魅力を発掘
- 大阪、夢洲会場から枚方へ(淀川舟運・空飛ぶクルマ)

>>> まちへの愛着向上

- 市民や国内外からの認知度向上・事業参加の機会創出
- 市民や多様な主体が事業や取り組みを企画、運営(ホスト)
- 「枚方の街の魅力の向上・再発見」→市民として誇れるまちへ

(引用)枚方市:「ひらかた万博」資料より

取組の概要

枚方市では、2025年の大阪・関西万博の開催を契機に、市民、市民団体、企業、大学等、多様な主体とのパートナーシップでまちの魅力向上につながるイベント・事業等の実施や、公民、民民共創による新たなビジネス創出等で地域経済の活性化をめざす市独自の取り組み「ひらかた万博」を令和4年度からスタートしています。

また「ひらかた万博」の取り組みの一環で、ひらかた万博共創プラットフォームを令和4年9月に創設(令和5年2月末現在52団体の事業者等が参画)。市の地域資源(自然、歴史・文化等の観光資源等)を活かした特産品・観光コンテンツの創出や、地域活性化につながる持続可能なビジネス創出をめざし、“共創に向けた対話”を進めています。

枚方市域全体をパビリオンに

枚方市の全域が
パビリオン



枚方市では、2025年大阪・関西万博に向けて、市の全域がまるごとパビリオンになるよう、市内外を問わず、たくさんの方々が枚方市の魅力を感じ、ワクワク・ドキドキするような取り組み「ひらかた万博」をスタートさせています。

市の西部には江戸時代に舟運で栄えた淀川が流れ、東部には生駒山系に連なる里山など豊かな自然環境が残されています。このような自然資源のほか、東海道56番目の宿場町である「枚方宿」や国特別史跡の「百済寺跡」などの貴重な歴史・文化資源など様々な地域資源を、公民、民民での“共創”により活かし、新たな魅力を創出することで、市内全域がひらかた万博パビリオンとなることをめざしています。ひらかた万博パビリオンとなるイベント、事業への参加・体験を通じて、枚方市への関心、愛着（行ってみたい、住みたい等）の向上をめざしています。

多様な主体との共創



対話からはじまる

共創

「ひらかた万博」の取り組みの一環として、市と企業・団体等、多様な主体との共創（公民・民民での新たな価値創造）を推進するマッチングプラットフォーム「ひらかた万博共創プラットフォーム」を令和4年9月に創設しました（令和5年2月末現在 52団体の事業者等が参画）。公民、民民共創で、市の地域資源（自然、歴史・文化等の観光資源や、各事業者等の技術、人財等）を活用し、持続可能で新たなビジネス創出等による地域経済の活性化をめざしています。

本プラットフォームでは、市（ひらかた万博）と、公民共創を希望する事業者間とのマッチング機会を提供。リアル集合形式での対話の場に加え、ICTを活用したデジタルコミュニケーションの仕組みも実証導入するなど、各主体からの共創アイデアの発表や、連携に向けた相互の情報交換を円滑に行うための環境整備を進めながら対話を深めています。

次代に継承するレガシー

枚方市ひらかた万博推進基金

街の未来へ。想いを寄附に



令和4年9月には、枚方市ひらかた万博推進基金を創設。当該基金は、ひらかた万博共創プラットフォームでの共創の取組等、ひらかた万博の事業に活用します。

ひらかた万博を通じて、多様な事業者等との公民、民民共創を推進し、更なるまちの魅力向上を図り、国内外から人が集まるまち、市民として誇れるまちへと進化することをめざします。

ひらかた万博を通じた“共創の機運”、“まちへの愛着”の高まりと、新たに生む“地域ブランド”、“事業・ビジネス”を次代に継承するレガシーとして創出し、枚方市の持続的な発展、成長に繋げていくことを、ひらかた万博に取組む意義として位置付けています。

